NPO一里塚様

“あぐりぱーく“利活用のひとつとして ヤギを飼ってみませんか、というご提言

2009年7月2日

定住候補者・Nasubi & Tomato

Copyright © 2009 Nasubi. All Right Reserved.

1．戦後、里山から消えたヤギ

- 日本のヤギ飼育数は、昭和32年の67万頭をピークとして、現在は2万頭まで減少しました。

※昭和29年制定の「酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律」による畜産産業化の影響

◆なぜ、廃れてしまったのか?

・搾乳量が牛に比べて劣る
一頭の年間の乳量は標準で5,000kg、ヤギはザーネン種であっても500kgで、1/10の生産力。ヤギを10頭飼うのであれば、牛を1頭飼う方が労働も楽だし、施設費もかからない。
・搾乳の季節性
冬期間は搾乳できず、年間を通じて安定した供給ができない。
・食肉の文化がなく、歩留まりも悪い
ヤギ利用の幅がない。 ※2万頭の半数は、ヤギ食の文化がある沖縄で飼養されている。

結果、戦後の復興期以降、畜産自体が産・商業化していく過程にあって、牛乳ひとパック200円時代になか、自家用の鶏同様にヤギも里山から消えていった。

Copyright © 2009 Nasubi. All Right Reserved.

2．世界のヤギの評価

- ところが、世界の山羊飼養頭数は年率2%、アメリカでも1%位で増加。1997年現在の総頭数は約7億頭です。その95%はアジア、アフリカおよび南アメリカに分布しています。韓国や台湾でも数10万数。

◆なぜ、増加しているのか?

・人口の爆発的増加や飢餓難民の増加に伴う食料不足への対応
粗食に耐え、過酷な環境下でも生育できる。
・宗教からの中立性
宗教による食肉の制限を受けない動物。
・先進国では食の多様性
フランス・イタリアではヤギチーズは高級食材。商用ばかりではなく、自家用の伝統を重んじる文化。

戦後のアメリカ型経済至上主義への行き詰まりや反省、帰農への潮流などが始まっているなか、ヤギについても復権の可能性が考えられる。

Copyright © 2009 Nasubi. All Right Reserved.

3．ヤギの可能性

自家用の家畜としての飼いやすさ

・手間がかからず、牧草から木・残渣まで幅広く食べる。おとなしく堅牢。
・寒冷地にも適応。
・小規模の施設で飼養でき、もと逐も安価。

ミルク等の利用

・栄養分が高く、アレルギーが出にくい、母乳にもっとも近いミルク。
・高品質のヨーグルトやチーズができる。
・赤身で高風味の肉。
・毛皮の利用
・糞尿による高品質な堆肥化

除草利用

・食草力を利用した放棄田畑の除草

教育への利用

・情操教育への利用（幼稚園への貸し出し）
・アニマルセラピー

Copyright © 2009 Nasubi. All Right Reserved.

“あぐりぱーく”のマスコットとして集客効果・話題性

除草目的の放牧
農業残渣

不耕地農地
牧場（緑餌場）
くず野菜
残渣

餌

糞 → 堆肥

情操教育セラピー → 幼稚園・保育園 / 小学校 / 養老院

ミルク

ミルク
ヨーグルト
ジェラート

チーズ
バター
クリーム

石鹸

毛皮

肉

仔ヤギ

通信販売
直売所等
農園リストランテ（アンテナショップ）
都市部レストラン等
沖縄等
他牧場・個人

Copyright © 2009 Nasubi. All Right Reserved.

4．わたしたちがヤギを飼おうと考えている理由（わけ）

わたしたちが移住後にヤギ（アルパイン種）を、飼養してみようと思っているの理由（思い）は、次のようなものです。

1．除草・糞の肥料化などの効果を考えると、循環文化のパートナーとなること
2．ミルクそのものでは採算レベルに行かないが、自家加工次第で、ある種の小ビジネスの芽もありそうな気がすること
3．農園リストランテのシンボルとして集客効果が期待されること
4．アルパイン種という中型の品種で飼い易いこと、また、ザーネン種に比べて乳量は劣るが、品質は良いとされていること
5．アルパイン種は、東北ではひじょうに希少であり、つまり話題性が期待されること

「農」という中核にさまざまが人が集まってくる、という
”あぐりぱーく”のポリシーに重なる。
・バザール
・景観植物の発想
・散策路やバーベキュー施設

とりあえず、8月29日（土）・30日（日）に新潟で開催される「第12回全国山羊サミット」に、NPO一里塚としてどなたか参加しませんか。（わたしも出席します）

Copyright © 2009 Nasubi. All Right Reserved.